



出会いに“ありがとう”

—姉妹都市フェアフィールドでの留学体験記—



蕪崎市の姉妹都市である、アメリカ・カリフォルニア州フェアフィールド市へ「姉妹都市中学・高校生派遣事業」の交換留学生として派遣された6名の生徒たちが、23日間の日程を終え1月9日に帰国しました。

この間、外国でのホームステイ体験を通じて、それぞれ学んだことや感じたことなどについて、感想を寄せてもらいましたのでご紹介します。



親しみやすい人柄と果樹栽培のまち

●フェアフィールド
サンフランシスコ ラスベガス
ロサンゼルス

フェアフィールド市は、アメリカのカリフォルニア州ソラノ郡の中心都市で、一年を通しての温暖な気候と、明るく親しみやすい人柄が特徴です。

5月から10月頃までは乾季にあたりほとんど雨が降らず、11月から4月頃が雨季にあたります。ブドウや桃、梨などの果樹栽培が行われているところなど、どこか蕪崎と似ています。

Ayaka Horiuchi

「ホームステイを終えて」

成田空港から期待と不安を胸に23日間のホームステイに旅立ちました。ホストシスターと再会するといつの間にか不安が消え、楽しい日々を送ることができました。

アメリカのクリスマスは街中が輝いていて、プレゼントも山のように積まれていました。ホストファミリーとゲームをしたり、買い物をしたり、本当の家族のように過ごしたので、お別れするのが少し寂しく感じました。

また、以前蕪崎に来たことがある友達にも再会することができたので、とても嬉しかったです。みんなとても優しくしてくれました。食べ物の量の多さには少し驚いたけれど、帰る頃には食べきれるようになっていました。会話も不自由なくできたのでもっと英語を勉強して、もう一度フェアフィールド市に行きたいと思います。



甲陵中学校
堀内 彩加

「23日間のホームステイ生活」

私はこの約3週間のホームステイ生活を振り返ると、楽しいことばかりだったように思えます。毎日英語を聞いて話すのはとても大変なことでした。でも分からない言葉があったら電子辞書で調べたし、ホストファミリーも易しい英語で話してくれたので、英語での会話を楽しむことができました。



韮崎西中学校
掘田 瑞稀

アメリカでの思い出は、サンフランシスコでの買い物やモンレーへの小旅行、多くのパーティーなどたくさんあります。学校訪問では日本の学校との違いを多く感じました。ほとんどの学校では制服がなく、給食也没有ませんでした。私がとても感動したのは授業中の積極的な姿です。先生への質問や自分が分からないところ、また、私達に多くの生徒達が手を上げてたくさんの質問をしてくれました。私も、アメリカの生徒達を見習いたいです。

このホームステイでは毎日が充実していて、他ではできない経験をすることができました。出会えた全ての人々に感謝しながら、フェアフィールドでやってきたことを生かしていきたいと思います。

「ホームステイを通して」

私は、このホームステイに参加して思ったことがあります。それは、感謝の心を持つことです。ホストファミリーは、とても私に親切に接してくれました。本当の家族のようで、すごく嬉しかったです。フェアフィールドに、第2の私の家がありました。今は感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、このホームステイに挑戦して、とても良かったと思っています。3週間という短い間でしたが、とてもたくさんの事が学べました。ホームステイで学んだことを生かして、もっと英語が上達するように頑張りたいです。



韮崎東中学校
清水 真央

「ホームステイ」

今回、フェアフィールド市にホームステイするに当たって本当に色々な人に協力してもらった。親、親族、市の方々、先生、ホストファミリー、向こうの友達、案内してくれた方々。自分一人ではのろくてぬけていて何もできない私が無事に3週間やってこれたのは、協力してくれた人々のおかげである。正直、後悔していることもある。もっと色々なことにチャレンジしてみれば良かった、もっとたくさん話せば良かった、などと思う。最後の1週間になってそれに気づいた。恐れ過ぎたと感じた。だが、得るものもあった。またいつか皆に会いたい。だからこれからもっと英語を聞き取れるように、話せるようになりたい。人間としても、もっと大人になりたいと思う。この旅のおかげで考えることができた。関わってくれた全ての人に感謝し、それを忘れないでいたい。



韮崎高校
戸島 南那

Miho Komai

「アメリカでの体験」

振り返ってみると、1週間目は1日を長く感じ、2週間目は何か悩み考えるより先に行動しており、最終週は口癖のように「日本に帰りたくない。」とっていました。

滞在中に強く感じたのは、世界は大きいということです。日本人は初対面の人と会うと、遠慮気味です。しかし、学校訪問で話した学生達は初めて会ったにもかかわらず、踊りだしたり歌いだしたり、私たちが想像していた以上の驚く行動をしました。そこで私達が初対面の人と話をするのは怖くないのかと尋ねると、ある女の子はこう言いました。「誰が何と言おうと私は私だから怖れることはない。」

こんな風に私も自分に誇りを持てる人間になりたいと思いました。

日本にいては感じられない多くの経験をしました。これからの生活で大いに活かしていきたいです。



山梨学院高校
駒井 美穂

Shuhei Kaneko



駿台甲府高校
金子 秀平

「フェアフィールド市での出会い」

「メンバー唯一の男子」その状況を知ったときは少なからず緊張したし、不安になったりもした。ただ、派遣生徒に選ばれた後はとにかく積極的に話しかけに行くことを考えるようにした。そして迎えたホームステイ当日、最初は3週間は長いと考えていたが、振り返ってみると、とても短い3週間だった。

向こうでの体験はいずれも貴重なもので、特に他の家のホストシスター等と話す機会があったサンフランシスコ観光は、特に貴重で自分のこれから先の人生において大変役に立つものであった。最後のフェアウェルパーティーの時は、悲しかったが、どうにかこうにか笑って別れることができたし、色々な人とたくさん話をすることができて良かった。これらの体験を私は決して忘れない。

最後に、このような機会を提供してくれた葦崎市とフェアフィールド市に心から感謝を申し上げたい。ありがとうございました。

Rumiko Miyashita

フェアフィールド市の温かい人々に囲まれて、また今年も姉妹都市派遣を無事に終えることができました。生徒達には、決してこの3週間だけに留まらず、未永くホストファミリーや友達と交流を続けていって欲しいと心から願います。

両市の姉妹都市提携が今年で40周年を迎えるそうですが、今までこのプログラムに関わってきた全ての人達の温かさや努力に感謝すると共に、今回の派遣メンバーも今後の姉妹都市交流に積極的に関わっていくことで両市を繋ぐ架け橋となっていけたらと思います。ありがとうございました。



引率者 葦崎西中学校教諭
宮下 瑠美子